

選定に必要な資料

(種目名 地図)

No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫	(6) その他	
A 東京書籍	<p>・各地域の資料を「基本資料」と「テーマ資料」に分けて掲載することで学習に利用しやすいよう工夫されている。</p> <p>・日本全体の資料と統計資料に35ページを使っている。全体を通して、資料や写真が大きく掲載してあり、比較したり細部まで読み取ったりしやすいように工夫されている。</p>	<p>・各地域の資料は「基本資料」と「テーマ資料」で構成され、「テーマ資料」にはそれぞれの地域で学習する中核的な内容に関わる資料が掲載されている。(p51-53)</p> <p>・環境に4ページを使い、経年変化の写真を掲載するなど、問題点をとらえやすくするとともに、日本のODAやJICAの活動も紹介している。(p11-14)</p>	<p>・資料のページでは、生徒や先生のイラストを使って考える視点を示すことで関心を持たせるとともに資料を読み取る力を高めるよう工夫している。(p43-44)</p> <p>・世界と日本の資源・エネルギーでは、鉱産資源の写真を掲載し、生徒がイメージ化しやすいように工夫されている。(p139-140)</p>	<p>・中国地方の地図で形や地形がとらえやすいよう竹島を5万分の1の縮尺で示している。日本周辺の地図では、竹島の写真を掲載するとともに日本固有の領土であることや、「韓国が不法に占拠していること」も記述されている。(p83-84, 182)</p> <p>・中国地方の地図に世界遺産である石見銀山などの遺跡や隠岐がジオパークであること、特産品などが、記号やイラストで示されている。(p83-84)</p>	<p>・地図のページにはタイトルの下に「～で注目したい記号」が示されており生徒の自学を助ける工夫がなされている。(p91-92)</p> <p>・「ジャンプ」のマークによって関連する資料とページが示されており学習を助ける工夫がなされている。(p43-44)</p> <p>・京都や奈良、大阪の拡大図とともに、歴史的建造物などがイラストで紹介され、歴史学習や修学旅行の学習で活用しやすい。(p96-98)</p>	<p>・インデックスが色分けされ、各地域のページを探しやすいよう工夫されている。</p> <p>・東アジアの資料に正倉院の宝物の写真を入れるなど歴史的分野での利用も意識されている。(p21-22)</p>	<p>・各地域の資料が、「基本資料」と「テーマ資料」に分けられており、学習に利用しやすく、写真や主題図も大きく掲載されており活用しやすいように工夫されている。</p> <p>・他の地域やテーマとの関わりを考えるために、「ジャンプ」のマークによって関連するページと資料名が示されており、複数の資料を比較・関連させて読み取る力を育む配慮がなされている。</p>
K 帝国書院	<p>・各地域の地図、資料ともに地域の特色がとらえやすく、学習に必要な情報が適切に配置されている。前半に自然などの基本的な資料が、後半に学習テーマに関わる資料が掲載されている。</p> <p>・アジア州に22ページを使い、日本と近隣諸国との関わりを意識した内容になっている。</p>	<p>・世界の地域の学習では、地図に同緯度同縮尺の日本が、資料には日本との関わりが設けられ、日本を意識した学習が進められる点で優れている。(p41-42)</p> <p>・「大陸から日本を見わたす地図」で古代からの結びつきを示したり、東海道の今と昔を掲載したりするなど歴史的分野での利用も意識されている。(p31-32, p103-104)</p>	<p>・資料に併せてイラストや写真が掲載され、興味・関心を高めるとともに視覚的にとらえる工夫をしている。</p> <p>・随所にイラスト入りの鳥瞰図を入れて立体的に見せることでそれぞれの地域についての関心をも高める工夫をしている。(p25-26)</p>	<p>・日本の見開きページで韓国との国境が明確に示され、竹島が日本固有の領土であることが読み取りやすい。同ページに竹島の航空写真が掲載され、「韓国が不法に占拠している」ことも記述されている。(p78-79)</p> <p>・中国地方の地図に石見銀山などの遺跡が示されている。資料のページには特産品のイラストが掲載されている。(p87-88, 91)</p> <p>・日本の地形のページには、島根半島のリアス海岸、隠岐のジオパークが掲載されている。(p139-140)</p>	<p>・地図や資料に鉛筆マークで、「やってみよう」という課題が示されており、生徒が自学できるよう工夫されている。</p> <p>・各地域の資料の中で特色のある「防災」「環境」についての取り組みを紹介し、公民的分野でも活用できるよう工夫されている。(p112)</p> <p>・北海道地方では、ロシアとの国境線の変遷を別図で示し、同縮尺の沖縄島を掲載するなど、北方領土問題について学習しやすくなっている。(p137-138)</p>	<p>・各地域の地図で「地図を見る目」によって読み取りの視点を具体的に示し、地図を通して考えることができるように工夫されている。(p60)</p> <p>・中国地方の地図に島根県の旧市町村名が記述されており、生徒にとって身近な地域の位置がわかりやすくなっている。(p87-88)</p>	<p>・学習に必要な資料が適切に配置されている。世界の学習では、「日本との関わり」のコーナーを設定し、世界の中での日本を意識しながら学習が進められる点で優れている。</p> <p>・「大陸から日本を見わたす地図」や東海道の今と昔の掲載、「防災」「環境」への取り組みの掲載など、他分野との関連や活用を意識した工夫が見られる点で優れている。</p>